

「三条教則」關係資料（九）

本号は

○『公令三箇条布教則大意』 千早定朝 (明治六年二月)

○『説教大意』 大久保好伴 (明治六年七月)

の二点を収める。

『公令三箇条布教則大意』千早定朝（明治六年二月）

本書は墨筆、和装袋仮絲綴で、表紙に「公令三箇条布教則大意 〔完〕とあり、次いで本文三十四丁（二丁二十行）が続く。末尾に「神武天皇紀元式千五百三十二年癸酉二月日曜日 斑鳩神民 千早橘定朝謹誌」とある。

著者は末尾に見られるように大和国斑鳩の千早定朝なる人物である。

内容は、三条教則の逐語的解説というより、一ヶ条全体の意をまとめ、神道人の立場から衍義をしているという傾向が強い。ただ、分量がわりに多く、かなり詳細に自身の存念を明確に述べているのが特徴である。そして著者の意図するところは「三則講義私抄」の意であるという。また、本文中、三条教則の衍義のあと、八丁にわたって「心身二行」について、人のおこないを心と身の二つに分かちて説明し、神道の立場からの一種の道徳論を展開しているのも本書の特徴の一つであろう。この箇所は、厳密にみれば三条教則の衍義とは言えないが、その関連という意味において、これも収録した。

なお、翻刻については國學院大學「河野省三博士記念文庫」所蔵本に依った。

『説教大意』大久保好伴（明治六年七月）

本書は版本、和装袋絲綴である。表紙題簽に「説教大意 全」とあり、明治六年五月と記した権大講義徒五位西尾忠篤による序文（二丁半）のあと、本文十三丁（二丁十六行）が続ぎ、末尾に木更津県少属竹内時鉄による明治六年四月の識語（二丁）がある。

著者の大久保好伴は明治六年七月当時、教導職の中講義であったようであるが、経歴の詳細についてはこれを明

らかにしない。

内容は、神道人による三条教則衍義書としては珍しい説き方と言えるかもしれない。たとえば、天神造化説などを強く主張するのが神道人による衍義書の通常の傾向であるのに比べ、本書はごく一般的に平易に日々の日常における五倫五常の道德生活を説くなど、きわめて穏当に釈しているようである。それが逆に本書の特徴と言えるかもしれない。

なお、翻刻については國學院大學「河野直三博士記念文庫」所蔵本に依った。

(三宅)

凡 例

凡例については前号にしたがった。

『公令三箇条布教則大意』 千早定朝 (明治六年二月)

蓋シ治心ハ神智ヲ得ルノ源、修身ハ国家ヲ保ツノ本ナリ。内行ヲ勤メテ心ヲ鎮メ、以テ人々所具ノ神明ヲ証シ、外行ヲ務メテ身ヲ修メ、以テ万庶固有ノ妙体ヲ顯ハス。是神明至極ノ公道ナリ。顯宗天皇ノ紀ニ天皇前ニ播磨国赤石ノ郡ナル縮見ノ屯倉ノ首ガ家ニ御座マシ、時ニ、其新室ヲ寿賜ヒシ御言ニ築立ル稚室葛根築立ル柱楹者此家長ノ御心之鎮也、取拳棟梁者此家長ノ御心之林也、取置椽檼者、此家長ノ御心之齊也、取置廬翟者、此家長ノ御心之平也、取結繩葛者、此家長ノ御寿之堅也、取葺草葉者、此家長ノ御富之余也、云云ト有テ、先第一ニ柱ヲ称テ心ノ鎮リナル由ヲ述へ、其柱ニ因リテ心ノ林、心ノ齊ヒ、心ノ平キナド寿キ詔ヘリ。其起原者神世ノ昔シ皇祖ノ二柱ノ大御神彼ノ御矛ヲ大地ノ中心ニ突立テ、其国ノ御柱ト為テ八尋殿ヲ造リ立給ヘリ。是レ殿作りノ始メニテ次々其御迹ニ效ヒ奉リテ、神宮及ヒ皇ノ御殿作りニ其中央ニ先ツ太柱ヲ立テ、然シテ後ニ其四面ノ柱ヲ立シム。

是謂ユル御柱立ノ行事ナリ。其中心ノ太柱ヲ古典ニ心ノ御柱ト称フ。亦忌柱トモ天ノ御柱トモ名ク。即チ此由緒ニ因リテ皇子等臣等ハ更ナリ。国造八十伴緒ノ家々庶人ノ家居ニ至ルマテ、又タ其状ニ效ヒ作りシ事ト所知タリ。今ノ世ニモ国々ノ百姓マテモ故実ニ隨而太キ柱ヲ立テ、其ヲ重ンスル事トハナレリ。所謂大極柱ナリ。俗ニ大黒柱ト云是ナリ。抑は大極柱ノ事ノ本ハ、彼ノ二柱ノ大神ノ國中ノ固タメノ御柱八尋殿ノ中央ニ立テ心ノ御柱ト為シ賜ヒシ神習ヒニ因リ循^{シテ}ヒテ吾人ノ殊ニ言拳コソ為ササレ、天地ノ固メノ御柱ニ擬^{ナシ}ヘテ家ニ大極柱ヲ立テ、其柱ニ準^{ナシ}ヘテ家ノ固メハ更ナリ。其ノ家主ノ心ヲ鎮ムル表物ト為セリ。是ヲ以テ上ニ引ク室寿ノ御言ニ築立ル柱楹者此ノ家長ノ御心ノ鎮リ也云云。蓋シ是レ古クモ心ヲ治ムル道アリテ、斯ク宣マヒシ事ト所知レタリ。扱彼ノ二柱ノ大神ノ立テ賜ヒシ御柱ニ依テ国土堅マリ、其ノ大地ニ巨ル御柱ノ一世界ニ亘リテ鎮メ、即チ神明ノ御心ノ鎮メヲ表シ賜フ神意ナラン乎。此ノ柱ヲ左右ニ行廻リテ御夫婦ノ礼式有テ其魂ノ凝リ分リテ万物ヲ生成シ賜ヘリ。乃チ神ハ万物ヲ根元ト云是ナリ。斯クテ人又其レニ

效フ事ハ一地ヲ有テ一家ヲ立レハ、其地其家ハ大小ト無ク、其ノ区界ニ即テ一世界ノ理備ハル物ナリ。人ノ一身モ亦此ノ如シ。心ハ柱ノ如ク、身ハ家ノ如シ。其心ノ柱立スンハ身ノ家如何ソ保ツ事ヲ得ン哉。因テ心身二行ノ上ニ就テ、先ツ心ノ一字ヲ弁スヘシ。其レ心ノ言為ルヤ、思ヒ凝ナリ。其凝タル心ノ発ルハ火ノ燃出ルカ如シ。心善ニ凝ルトキハ善行発シ、心惡ニ凝ルトキハ惡行発ス。其ノ善惡ノ魂ノ凝リノ輕重ニ由テ、或ハ神果ヲ感シ、或ハ人ニ在テ富貴或ハ貧賤ヲ感ス。神ト人ト不二ニ而惟心ノ所變而已。若シ夫人々此ノ心ヲ明ラメ性ヲ見ルトキハ我胸中ニ所具ノ神明ヲ顯ハシ、虛靈不昧ノ妙理ニ達セシ。然ハ則チ万国皆神人ナリ。所謂神之本原タルヤ心ノ一字ヲ出テス。暗者ニ有テハ凡智ト曰ヒ、明者ニ有テハ神智ト曰フ。教ハ方ニ随テ名ハ異ナリト雖トモ体ハ一心ナリ。心ノ外ニ余ナシ。心ヲ以テ身トナシ、心ヲ以テ土ト為ス。身土皆心ナリ。所謂一念心、上之清淨ノ光リ、即チ胸中之神明ナリ。其レ神之言為ルヤ赫見ナリ。明鏡ナリ。智ハ一心之用ナリ。真俗ニ智ヲ明スノ中、真智ニ於ル本性清淨ニシテ、諸ノ穢惡ヲ離レ、内外ヲ洞徹シ、幽

トシテ燭サル事無シ。大円鏡ノ万物ヲ洞照シテ明了ナラサル事無キカ如シ。是ヲ神智トモ明智トモ名ク。八之ヲハ之ヲ虚靈不昧キモ明德トモ名ク。儒道ニ皆ナ是レ照鑑シテ徹上徹下潔白純粹之義ナリ。乃チ神ヲ心ナリト云是ナリ。然ラハ則チ人々内外ノ穢惡ヲ行触來觸眼借尿尸血汚等ハ外ニ屬ル穢惡ナリ。傲慢貪淫惰妬等ハ内ニ屬ル穢惡ナリ。祓ヒ清メ、以テ諸ノ邪念ヲ伏断スレハ豈ニ神智ヲ求メ得サラン哉。若シ人其ノ神智ヲ得レハ、則チ幽冥隱顯ノ深旨ヲ証シ、生ト死自在ノ域ニ至シ。且ツ身終ラハ神職高天ノ原ニ住シ、昭々了々トシテ能ク物ニ応シ、不動ニシテ妙ニ用ヲ施コス。固ヨリ彼我ノ念ヲ絶シ、濟民ノ仁愛厚キガ故ニ世之清濁ニ随テ、或ハ化生シ或ハ胎生シテ世ニ顯現シ、威力自在ニ万国ニ遊化シ、以テ方ニ随テ慈教ヲ万世ニ垂ル。之ヲ真神ト云。蓋シ地祇ノ神明則チ是ナリ。文德天皇ノ御世齋衡三年十二月常陸国ヨリノ上言ニ、大國主カ少彦名ノ二柱ノ大神人ニ憑リテ託シ賜フ其御言ニ、昔シ造此國一訖テ去ニ往東海一今為濟レ民、亦更ニ来リ帰レリト云云。又雄略天皇ノ御世ニ事代主ノ神是大國主ノ神ノ第一ノ御子ナリノ御形ノ現ハシテ天皇命ト共ニ山狩シ給ヘル時ニ吾者雖ニ惡事ニ而ニ一言一、雖ニ善事ニ而ニ一言一言離之神葛城之一

言主之大神也ト詔ヘリ。此等ノ神御所為ヲ以テ思合スヘキ事也。凡ソ神ニ於テ三品有セリ。一ニハ法性神、二ニハ有覺神、此ニ神ハ唯善ノ神明ナリ。所謂大直日ノ神是ナリ。但シ荒御魂ノ荒ヒ賜フ事ノ有ルハ、外剛内柔、外柔内剛之義ヲ以テ且ニ靈感ヲ表ハシ、勸善懲惡ニ殺多生等ノ善巧方策ヲラン乎。国家ヲ擁護シテ神驗自在、柔和質直四無量四攝法等広ク善巧良策ヲ以テ変現施為スルナリ。之ヲ離レテハ実類ニ隨ス。三ニハ実迷神ナリ。幽ニ住シテ人ノ施供ヲ受、一分ノ神驗ヲ施スト雖トモ自在ナラス。凡夫ニ同シテ威憚ノ心有テ瞋リ有リ。故ニ神樂等ヲ以テ之ヲ和慰シ、以テ国家ノ災害ヲ莫ラシム。又神典ニ神ノ成リ出ツル様ニ三身ヲ建ツ。一ニハ理リノ身仏道ノ法身、二ニハ氣之身報身、三ニハ種ノ身法道ノ応身是也。又神靈ニ和魂、荒魂、奇魂、幸魂、術魂之義有リ。ユ、ロ委説ニ及ハス。古事記日本紀等ノ神典ヲ觀テ見ツヘシ。其ノ深意ハ宜ク識者ニ問得スヘキ也。畢竟ハ魂ト云モ別ノ名ニ非ス。魂則チ心ナリ。心ヲ離レテ魂ナシ。魂ノ外ニ心ナシ。心ト魂ト不一不異ナリ。其ノ思フ心ノ強ク凝レルハ体ヨリ分ツテ種々之靈異ヲ顯ハス。凡人ニ於テモ生靈トテ深キ思ヒニ凝レル人ノ魂ノ別ニ現形シテ崇ヲ為ス物モ世ニ往々有。是皆思ヒノ

凝ヨリ發シテ惟心之變スル所ナリ。然ラハ則チ我レ是ノ一心ノ源ヲ鎮メ動カサザルトキハ千万ノ惡事何ニ由テカ發ラン哉。譬ヘハ毒樹ヲ伐ルニハ其根ヲ断ツトキハ枝葉自然ヲ枯ルガ如ク、又夜明テ日天東ニ出賜トキハ諸ノ惡鬼邪神悉ク伏隠ル、カ如シ。因テ只一心善事ニ志シ正念相誼シテ間断無ケレハ、則チ邪念ハ自然ニ伏断シテ修身齊家治国平天下之道自ラ備ハル。故ニ心ヲ治ルヲ本ト為シ、然シテ身ノ行ヲ慎ムヘキ事ナリ。然ルニ凡情ノ習トシテ何カニ其ノ行ヒヲ慎ムト雖トモ縁ニ触レテ意成ラス。惡ヲ犯シ、或ハ自カラ知りテ犯ス事ハ無レトモ心ニ得知ラス。穢惡ニ触レテ穢火ヲ食シ、又天地ノ神意ニ違フ等ノ過犯ス事必ス有ルヘシ。其不善ナル事ヲ知テ行ヲ惡ト云ヒ、不知シテ不善ノ事アルヲ過チト云フ。然ラハ惡ト云フ迄ノ事ハ無クトモ誰レ人モ過チナシトハ云難シ。是ヲ以テ神祖禊祓ヒノ法ヲ示シテ其慈教ヲ万世ニ垂賜ヘリ。是神道之第一義ナリ。抑我皇國ノ禊祓ヒノ起原ハ彼ノ神伊邪那岐ノ命夜見ノ國ニ往坐テ彼処ノ穢惡ニ觸賜ヒテ其ヲ甚ク悔ヒ惡クミ還リ坐シテ、日向ノ橘ノ小戸ノ阿波岐原ニ於テ穢惡ヲ禊祓ヒヲ為シ賜フ其時、祓戸ノ神ト

テ御名ヲハ瀬織津姫神速秋津比咩神氣吹戸主神速佐須良
比咩ノ神トテ四柱ヲ生坐セリ。此神等ハ伊邪那岐ノ命ノ
甚ク夜母都國ノ穢惡ヲ忌ミ嫌ラヒテ身滌ヲ賜フ其ノ御
魂^{コト}ノ凝リ分リテ成リ坐セル神タチナル故ニ、其ノ由來
ニ隨而世ニ有ユル柱〔枉〕事人ノ身ニ係リト係ル罪穢禍
事ヲモ尽ク祓ヒ清メ賜フガ故ニ、大祓ノ詞ニ比四柱ノ神
ノ御名ヲ出シテ祈ル事トハ成シ賜ヘリ。其本ハ邇々芸ノ
命天降り賜フ時二天皇祖神タチノ高天ノ原ニ其ノ事ヲ始
メ賜ヒテ葦原中津國ニ於テモ如此物為賜ヘト御教ヘ坐ル
大祓ノ神事ヲ真似ビシ奉リテ、今ノ世マデモ公廷ニハ每
年六月十二月ノ晦日二天下ノ百姓ノ罪穢ヲ払ヒ賜ハン
為二天都御祖神タチノ大詔命ノ隨^マ而此神事ヲ行ヒ給フ
事ナリ。中昔マデハ下々ニ至ル迄是深キ御仁惠ヲ仰キ、
人々其御所為^{シテ}ニ效ヒ奉リテ各々其分ニ從ヒテ執リ行ヒシ
ヲ何ノ頃ヨリカ之ヲ廢リ來テ、遂ニ其名ヲタニ知ラザル
事トハ成レリ。然ルニ方今景運丕新ノ際ニ膺リ、万民是
ノ義ヲ弁ヘス。益々迷暗ノ域ニ至ラン事ヲ深ク憐ミ百廢
俱ニ興シ賜ニ、先ツ禊祓ノ神事式ヲ天下ニ布告シ賜フ。
是人々犯ス所ノ罪過ヲ祓ヒ清メ令メ、神明一致ノ知識ヲ

開カ令ントノ御仁計ナラン。誰カ之ヲ仰ガザラン哉。然
ラハ各々其分ニ隨ヒ禊祓ノ神事ヲ執リ行フヘク、又ハ神
社ニ於テ大祓ノ式トテ執行フ事有ル場^{トコロ}ニ集ヒテ其神事
ニアヒ、又常々過犯ス事ヲ恐れ、是ノ神タチノ拜ヲ缺サ
ラン事ヲ要セヨ。扱爾時^{ツケカ}伊邪那岐ノ大神清水ニ由テ身滌
キ為シ賜フ事ノ外、行ノミノ議^カナレトモ、身ヲ清水ニ浴
シ穢惡ヲ祓ヒ清ムレハ自然ニ内心迄清淨潔白ニ成リテ神
拜スルニモ何トナク信起リテ意嬉シキ物ナリ。彼ノ須佐
之男ノ命天ノ罪ヲ受ケ、逐払ハレテ後ニ罪ヲ悔ヒ、其御
心直リ賜ヒシ時ニ、我ガ御心者安ク平ニ成ヌトモ、我御
心須賀々々^{ノケ}ストモ宣^イヒシガ如シ。然ルニ凡人ニ於テハ
心身二行ニ就テ、上根ノ者ハ直ニ心ノ内行ヲ用ヒ、下根
ノ者ハ先ツ身ノ外行ヲ用ヒテ自然ト心ノ行ヒノ所ヘ至ラ
令ムルナリ。而ルニ未^マ世ノ人ハ多ク下根ナレハ、自力
ヲ以テ身ノ行ヒモ能ハザル事多シ。故ニ神ニ請祈リ、其
神威ヲ被ラスンハ如何ソ凡人ノ内心ヲ清メ鎮ムル事ヲ得
ンヤ。是ヲ以テ專ラ外行ヲ示シ賜フ乎。蓋シ是レ未^マ世
下根ノ者ノ行ヒ難キヲ、兼テ照鑑シテ御自カラ身滌ノ外
行ヲ用ヒテ法ヲ示シ、以テ後世ノ規範ト為賜フ物ナラン

哉。又彼阿波岐原ニ於テ身滌ヲ為シ賜フニ上瀨者瀨急シ。下ツ瀨者瀨弱シトコトヲシテ言コトヲシテ奉曰ヒ、而初メテ中ツ瀨ニツカサカ躰ツカサカ迦ツカサカ豆ツカサカ伎キ、而身滌キ為シ賜フニ、先大禍津日ノ神ヲ吹キ生賜ヘリ。是ヲ以テ其ノ禍ヲ直サント為テ大直ウツマ昆ウツマノ神ヲ始メ、次々ニ諸神ヲ生成賜エリ。扱身滌キ終リ果テ、御身モ御心モ清淨ニナリ賜ヒテ後ニ左右ノ御日ヲ洗ヒ賜フ時ニ至テ天地ニモ耀キテ世ヲ照シ賜フ日月ノ二柱ノ大神ヲ生坐シ賜ヘリ。是褻被ヲ行ヒ賜フ御徳ノ顯ハル、所ナリ。蓋シ中瀨ヲ以テ身滌キ処ト定メ賜フ事ハ偏有偏無ノ二執ヲ払ヒ除キテ中道之妙義ヲ悟ラ令メ、以テ群迷ヲ直真之妙路ニ導キ人、同ク神境ニ帰セ令ントノ神意ヲ表示賜フ物乎。固ヨリ人在世中ニ心清淨ナルトキハ則チ生ヲ転シテ神明ノ域ニ歸シ、心濁穢ナルトキハ則チ鬼魅ノ界ニ墮セシ。其道理ノ有ル義ヲ弁ヘ知ラサルヲ深ク憐ミ、穢惡ヲ祓ヒ清ムル法ヲ教示シ賜フ神意自カラ顯ハレタリ。然シテ其教ト曰フ物ハ、故ラニ設ケテ別ニ道アルニ非ス。民ニ有テ必ス固有セル道ノ隠レテ未タ顯ハレサルヲ神明ノ御所為ニ隨而人ノ質朴ナル、正直ナル、神代自然ノ古則ヲ説顯ハス迄ナリ。是ヲ行スルヲ学ト曰ヒ、此ニ導クヲ

教ト曰フ。今ニシテ其ノ神御事ヲカムミコト傳ヘ云ヘル物ヲ道ト名クルノミ。固ヨリ神ノ御所為ニ即テ修身齊家五倫ノ序テ自ラ備エ賜エリ。故ニ神典ヲ觀テ能ク之ヲ會得シテ其神ノ御所為ニ隨テ自ラ能ク行ヒ、又他人ノ為ニ教ヘ親族兄弟ノ如ク互ニ修学セハ神慮ノ本懷足ルヘシ。是ヲ以テ印度ト曰、漢土ト曰ヒ、洋土ト曰ヒ、教ハ方ニ隨テ名ハ異ナレトモ其本原ヲ推究ムレハ皆是神教ナリ。神教則チ心教ナリ。心教ヲ離レテ道ナシ。道ノ外ニ心教ナシ。心ハ万物ノ根元ト云是ナリ。然ラハ則チ仏ト曰ヒ、儒ト云、洋ト曰ヒ、諸道我國ニ有テハ我國ノ神道ナリ。凡ソ教方ニ於テ差異有ルハ衆庶ノ機一准ナラス。故ニ神聖ノ垂教モ亦万機ニ応シ時教各不同ナリ。蓋シ、神聖勸誡之徵言ニ於テ神凡ニ諦ヲ分チ、表ニハ差異有リト雖トモ、内ニハ其致ヲ同ス。故ニ諸道通シテ勸善懲惡ヲ以テ正宗ト為ス。其レ儒典者、世間ノ聖教釈典者出世之聖教神典者上天之直教ナリ。暫ク淺深有リト雖トモ、共ニ是レ智ヲ磨キ神明ニ至ルノ真典ニシテ局説偏見ヲ離シテ之ヲ学フトキハ、則チ機根ヲ熟令ル之要道也。蓋シ世間之善行ハ則チ天外至極之神境ニ至之德行也。若夫人々此理ヲ明ラメ、

彼我之異見ヲ絶スルトキハ、則チ四海兄弟ニシテ万国一
 致ニ帰ス。然トモ郷ニ入テ郷ニ隨ヒ、俗ニ入テ俗ニ隨フ。
 學ハ各国其教ニ隨テ基ヲ立ツ。我國ハ神習ヒノ道ヲ以テ
 本ト為ス。本立スンハ如何ソ容易ク本原ヲ究ムルコトヲ
 得ン哉。因テ我皇國ノ神典ヲ本ト為シ、然シテ互ニ修學
 シ、其ノ教ノ長スル所ヲ職テ、之ヲ用ヒテ學教ヲ定ムヘ
 シ。古語ニ曰ク、長ハ博ク謀ヨリ長ナルハ莫シト云ヘリ。
 聖智ト雖トモ博ク謀リテ千万人ノ智ヲ我一人ノ智ト成ス
 所ナリ。舜ヲ大智ト云モ、夫レ之ヲ謂歟。故ニ広ク學ン
 テ彼我ノ異見ヲ生セザラン事ヲ要セヨ。伏テ惟ルニ如今
 也聖運興復ノ際ニ膺リ、百廢俱ニ興リ、今復教部ノ制令
 ヲ創立シ、以テ政化ヲ羽翼シ玉フ。其鴻業ヲ振起シ玉フ
 御徳万古ニ越エ、政化神世ノ昔ニ復シ、神威益々四海ニ
 輝キ、遂ニ万夷尽ク我神明ノ本國ニ帰伏シ、年々貢キ事
 フ奉ルヘキ期近キニ有ラン。固ヨリ是レ神慮ノ本懐タリ。
 彼ノ伊勢大御神ノ御前ニ白ス祝詞ニ曰ク、皇大御神能見
 齋志坐四方。國者天能壁立極。國退立限青雲能
 霧極。白雲墮坐向伏限。青海原者樟椀不干。
 舟艦能至留極。大海爾。舟滿都々氣氏云云遠國者。八

十綱打掛氏引寄如事。皇大御神能寄奉波云云皇御孫
 命御世乎。手長御世堅磐常磐齋奉。茂御世
 幸閉奉。故云云此諸神代紀ニ神祖ノ皇國ヲ愛撫シ玉フ
 事此ノ如シ。誰カ神徳ヲ仰カザラン哉。誰カ皇國ヲ愛セ
 サラン哉。因テ先ツ敬神愛國ノ旨ヲ体スヘシ。夫神者蹟
 ハレスシテ能ク物ニ応シ、動カスシテ能ク妙用ヲ施ス。
 然ト雖トモ鐘谷モ擊サレハ不鳴。人トシテ敬信無クンハ
 如何ソ感格アルコトヲ得ン哉。古語ニ曰ク、天雨私シ無
 レトモ枯木ヲ潤サス。神智ハ普シト雖トモ無限ヲ利セス
 ト云ヘリ。而ルニ是レ神ノ過ニ非ス。敬信至誠有ラサル
 カ故ナリ。所謂雷ハ能ク轟ケトモ聾者ハ聞クコト能ハサ
 ルカ如キ雷ノ過ニ非ス。聾タルガ故ナリ。又人有テ頼リ
 ニ祈リヲ為スト雖トモ感格アル事ヲ得ス。是亦神之失ニ
 非ラス。不正ヲ祈リテ神理ニ契合成サ、ルカ故也。所謂
 日光ハ普ク照セトモ盲者ハ見ルコト能ハサルカ如キ日光
 ノ失ニ非ス。盲タルカ故ナリ。因テ至誠ニ敬信スルヲ以
 テ肝要トス。信ヲ堅メ心ヲ決シ至誠ニ尊敬スルニ、豈ニ
 感應ナカラン哉。至誠ハ神ノ如シトモ神ハ正直ヲ以テ体
 トストモ云是ナリ。扱我瑞穂ノ國ハ神祖天照大御神八咫

鏡ヲ以テ御靈代ト為シ、万世無窮伊勢ニ鎮リ坐マスヲ始メ奉リ、天地一切ノ神祇諸国処々ニ鎮マリ坐シマシ幽顯共ニ照臨シ賜ヒ、神衛神罰嚴ニシテ朝敵有ラハ則チ之ヲ罰シ、其神威至ラサル所ナシ。天稚日子神ハ不忠ニシテ忽チ神矢ニ亡ヒ、異国襲ヒ来ラハ颶風^{グフウ}激濤^{ゲキトウ}忽チ蒙古ノ軍艦ヲ摧破セシ如ク、豈ニ神威ノ赫々タル者ニ非ス。此ノ如ク靈異万国ニ超過スルヲ感戴シテ神威ヲ空クスル事勿レ。神ハ敬スルヲ以テ威ヲ増シ、威ヲ増スガ故ニ惡神伏シテ災害莫ク、人民亦神威ヲ被ルカ故ニ上下能ク和シテ国家自カラ平穩ナリ。是レ所謂和国ノ美号アル所以ナリ。良ニ由アル哉。我皇国ノ大道タルヤ神祇ヲ誠敬スルヲ以テ教ノ第一トシ、祭祀ヲ崇重スルヲ以テ大政之根本トス。故ニ神祖ハ万世垂訓ノ始ニ祀典ヲ以テシ玉フ。皇祖ハ其神訓ニ隨而靈疇ヲ鳥見ノ山ニ創立シ、始テ神明ヲ祭り玉ヒ、歷朝ハ其ノ大業ヲ繼キ諸祭ヲ以テ邪家安寧万民保全ノ禱リ年々々々欠ズ、神明ニ依頼シ億兆ヲ愛撫シ玉フ事此ノ如シ。皇民タル者其ノ大恩ヲ識リ報ヒスンハ有ヘカラズ。恩ヲ受ケテ恩ヲ報スル心ナキ者ハ、人ニシテ人ニ非ス。顯明ニハ其責メ無シト雖トモ、遂ニ幽界ノ神明

得テ之ヲ罰シ、生ヲ軫シテ鬼魅ノ界ニ墮セン。誰カ慎マサルベケンヤ。因テ恒ニ敬神ノ念ヲ欠ス。各分ヲ顧ミ、神風ヲ仰キ、内外清淨ニ調ヒ、神饌ヲ獻シ奉リテ朝夕神拜ヲ闕如スルコト勿レ。是レ神恩国恩ニ報答スル而已ナラス、我身ノ幸福ヲ招ク早道是ヨリ近キハ有ルヘカラス。是ヲ敬神ノ要務トス。且国ヲ愛スヘシ。我皇国ハ天祖肇テ天地一世界ヲ創立シテ女男ノ二柱神先ツ是ノ国ヲ造リ堅メ、諸神此ノ国ニ生坐シテ各々其ノ分ヲ司リ賜ヒ、衣食住ノ道ニ就テ草木穀物等諸品ノ種ヲ生シ、山野ニ殖繁ラシメ、殊ニ天照大御神ハ天地ノ主宰トシテ穀物ハ愛シキ青人草ノ食ヒテ活ヘキ物ソト詔リシテ田畠ヲ作り殖シメ、養蚕織機等ノ業ニ至ルマテ此大御神ニ始マリ、医薬ノ道禁厭ノ方ハ大国主、少彦名ノ二神ニ始マリ、其外諸工ノ道ニ至ルマテ世界有ユル万物皆是国ヨリ始リテ、其ノ詳細ナル旨ハ神典ヲ觀テ見ツヘシ。是所謂神国之尊号有ル所以ナリ。此ノ如ク神ノ恩頼ニ因テ今日迄水土ノ秀美ヨリ産出乏シキコト無ク満足シ、別シテ皇国ノ稻穂ハ大御神ノ御田ナル稻穂ヲ受ケ玉ヒテ皇孫爾々芸命始テ此地ニ殖シメ玉ヒシ稻種ヲ授カリ伝ヘテ神ノ造作ナシ玉ヘ

ル御国ノ季侯順正ナル肥土良田ニ殖ユル故ニ神世ヨリ稲穀ノ万国ニ卓レテ美味ナリ。是美穀ヲ飽マデ食シテ有ルカ故ニ、人亦外国ニ卓レテ剛強ナリ。瑞穂ノ国ノ嘉号有ルモ亦此所以ナリ。神民タル者宜ク茲ニ注意シ、粟散ノ如キ枝国ニ生セスシテ、斯ル秀美ナル神明ノ本国ニ生ヲ受ケ、且ツ万物ノ靈トシテ其魂ハ則チ天神ヨリ賦与シ玉フ処ナレハ、幸ノ中ノ幸、甚悦ヒノ中ノ大悦ナリ。誰カ其ノ恩頼ナル事ヲ遺シテ昏蔽ニ附スヘケンヤ。士農工商各其力ヲ竭シ、私ヲ捨テ正直ヲ本トシ、人ヲ親シムコト子ノ如ク、悲喜苦楽ヲ共ニシ、貧ヲ見テハ之ヲ賑ハシ、危キヲ見テハ之ヲ扶ケ、道路ノ損シ橋ノ破レニ至ル迄諸人ノ難義迷惑スル所ヲ見レハ、人ト力ヲ合セテ此レヲ繕ヒ、公役ト有ラハ身体ヲ惜マス国用ヲ足シ、物産ヲ殖蕃ラシ、授産ノ活計ニ注意シ、富国強兵ノ策ヲ運ラシ、以テ皇国ノ美名ヲ万国ニ輝カサンコトヲ要スヘシ。是ヲ愛國ノ大旨トス。

次ニ天理人道ヲ明カニスヘシ。夫レ天理トハ聡明正直ノ性トシテ純清純善ナリ。人道トハ其性ヲ稟ケ継キテ清斉ニシテ天理ニ順孝スルノ道ナリ。天ニ順スルヲ善ト云。

逆フヲ惡ト云。其レ天理ニ順フトキハ願ハスシテ福ヲ得、逆フトキハ追レント欲スレトモ禍ヒ来ル。乃チ禍福ハ自ラ作業ノ招ク所ナリ。而ルニ人自作ナル事ヲ知ラス。還而天ヲ恨ム。天黙シテ知り、禍ヒヲ国家ニ降ス。古ニ曰ク、天聽トモ寂ニシテ音ナシ。蒼々トシテ何レノ処ニカ尋ネン。高二非ラス。亦遠キニ非ラス。只人心ニ在ルノミ。天理人道未タ嘗テニ途トセス。人事ニ因テ天理ノ定マル所是ヲ天命ト名クルナリ。乃チ命ハ我ヨリ建立シテ其成就シタル所ヲ天ヨリ印可シテ禍福ヲ定ムル者ナリ。造レ命者ハ天也。立レ命者ハ我也ト云、是ナリ。譬ヘハ小家ヲ大家ニ改メ造ラント欲スルニ、家ヲ造ル者ハ天ナリ。良材ヲ積集ムル者ハ我ナリ。材木ヲ調ヘザル者ハ在来之家ニテ生涯ヲ過ス。是則生来一定ノ天命也。若シ大家ニ改メント欲スル者ハ先ツ良材ノ用意スルナリ。材木之大小ニ依テ家モ亦隨而天ヨリ造リ改ムル者ナリ。然ラハ則チ善事ノ良材陰徳ノ大木ヲ積集メテ不平不謙ノ心ヲ改メテ、是マテノ破家ヲ打棄、新タニ朱門高閣ノ大宅ニ造リ改メント祈ルニ、天道造化ノ大工豈ニ改メ造り賜ハザランヤ。書經ニ曰ク、作レ善天降ニ之百祥、ニ作ニ

不善一、天降ニ之百殃一ト云ヘリ。天命一定トセハ禍福モ亦一定ナルヘシ。如何ソ此ノ如ク一生ノ内ニ於テ与ヘツ奪ヒツシテ禍福不定ナルヤ、是以テ思フ二人初生ノ時ニ定リタル天命モ其後ノ所行ニ由テ一定ノ天命モ更ニ転シテ或ハ福ヲ与ヘ、或禍ヲ与フ。是皆ナ心ヨリ求メ得ル所ナリ。且ラク悪事ニ就テ云ハ、愚人ノ止ムコトヲ得サル者、釘ヲ打テ人ヲ咒阻スルモ一心ノ感通ニ因テ、或ハ人ノ眼ヲ打ツブシ、或ハ手足ヲ打悩マシ、或ハ命ヲ取り殺ス等、種々害ヲナス者世ニ往々之有リ。此ノ如キ眼ヲ打ツブス金鎚モ手足ヲ打悩マス横椎モ命ヲ取殺ス刀鋸モ外ヨリ持来ルニハ非ス。是皆ナ心中ノ穢惡ヨリ取出シタル者ナリ。又善事ニ就テ云ハ、郭巨ガ釜、孟宗ガ笋、王祥ガ鯉魚、姜詩ガ双鯉ヲ得タル、是皆孝心ノ至誠ヨリ取出タル所也。我朝ノ秘説ニハ不善ヲ顯明ノ中ニナセハ天照大御神ノ御心トシテ、人ヲ以テ之ヲ誅セシメ玉ヒ、不善ヲ幽間ノ中ニナセハ大国主ノ大神照臨シテ鬼神ヲシテ之ヲ誅セシメ玉フ。豈ニ恐れサルベケンヤ。因テ善ハ小善ト雖トモ捨ス行フベシ。惡ハ小惡ト雖トモ去テ行フヘカラス。易經ニ、善不レ積不レ足ニ以成レ名一、惡不レ

積不積不レ足ニ以減レ身一、小人以ニ小善一為レ無益而不レ為也、以ニ小惡一為レ無レ傷而不レ去故惡積不レ可レ掩罪大不レ可レ解ト云カ如ク、人々平生ニ小惡ハサノミ咎ナシ。神明モ免シ玉ハント思ヒナシテ、無益ノ殺生ヲ為シ、其外親兄ニ逆ラヒ、朋友妻子眷屬ノ間ニ処シテ事ニ触レ、折ニツレテ怒リ争ヒ、惡事ハ多ク善事ハ少キ者ナリ。而ルニ易ノ文意ニ依ラハ、小惡ト雖トモ一々消ヘ失セスシテ、後々積リ々テ大罪ト成リテ一身ヲモ滅亡スルニ至ル。又善事ニ於テモ小善ハ何ノ祈禱ニモ不成ト思ヘトモ、絶ヘス行ヘハ後々ニハ積リテ大ナル福德ヲ得ルノミナラス、其吉凶子孫ニ及フヘシ。積善ノ家ニハ余慶有リ、積不善ノ家ニハ余殃有リト云、是ナリ。総而貴賤上下ニ限ラス、人ノ身ニ行フ所、又政事ヲ行フ上ニモ道アレハ吉也。道無レハ凶ナリ。教ハ變化ノ無尽ナリト雖トモ、畢竟其ノ肝要ヲ括リテ云エハ、道有ルト道ノ無キトノ二ツニ分レテ、此ヨリ外ノ子細ハナシ。故ニ古語ニ、吉ト者百福歸スル所、凶ト者百禍攻ムル所ト云ヘリ。何故ニ道有レハ吉ナルゾト云フニ、百福ノ歸スル所ナルカ故也。歸スルトハ様々ノ幸福ハ皆此道有ル所ニ趣クノ義

ナリ。又道無ケレハ何故ニ凶ナルゾト云ニ、百禍ノ攻ル所ナルカ故ナリ。攻ルトハ種々ノ禍ヒハ皆是道無キ人ヲ攻メ害スル故ナリ。又曰ク、神聖ニ非ス、自然ニ鐘ル所ナリト云ヘリ。神トハ神人トテ神妙不測ナル人ヲ云フ。聖トハ聖人ナリ。斯ノ如ク万ノ福イヲ得テ芽出度榮フルコトハ其人天理ニ順孝シテ神意ニ契合シ、神ト徳ヲ均フシ、天ト功ヲ同フシテ神妙不測ノ神人ナルニ因テナリ。我智恵ノ力ヲ以テ斯ク福イヲ得タルニ非ス。福イハ道有家ニ集ルコト自然ノ道理ニテ、畢竟我自力ヲ以テ福イヲ得ルヘキニ非ス。道有レハ自然ト彼方ヨリ福ヲ来リ鐘ル所ナリ。又曰ク、福イハ積善ヨリ生ス。禍ハ積惡ニ在リト云ヘリ。積善トハ一ツ二ツ三ツ四ツト善ヲ行ヒテ積重ナル事ナリ。善ヲ為シタレバトテ一朝一夕即座ニ福イト成ルニ非ス。年月久シク善ヲ積重ネタル所ヨリ福イハ出来ル者ナリ。人々福ヲ得テハ我一人ノ才能智恵ニテ是ノ福ヲ得タルト思フハ大ナル誤リナリ。是レ先祖ヨリ善ヲ積重ネタルノ余慶、或ハ我一代ニテモ若年ヨリ久シク善ヲ積重ネタル所ヨリ出来タル者ナリ。凡ソ世間ノ人ノ中ニ於テ、サノミ善人ニモ非スシテ、或ハ生レ付タル性質

トシテ人ノ急難ヲ救ヒ、或ハ心ニ思ハネトモ指結メ扱ナクシテ難義ヲ救ヒ、或ハ賭ノ業ナドヲ為テ好カラヌ人柄ノ者、丈夫ノ意氣ヅクトテ便リ無キ人ヲカクマイ、或ハ刑罰ニモ行ハルヘキ人ヲ無事ニ事ヲ治メ、上ノ役介ニモ掛ケス、安心為サセ、或ハ道路ノ損シ橋ノ破壊等ノ繕ヒニ大二周旋ヲ為シ、存ノ外ニ大ナル善根ヲ為シ、而モ其ノ身ハサノミ善事トモ知ラヌ者アリ。此ノ如キノ人後ニ或ハ不意ノ金錢ヲ得、或ハ富人ニ取立ラレ、或ハ發明ナル好子ヲ生ミ、寿命長久ニテ其ノ子ニ掛リ、安樂ニ終リヲ遂ル者多シ。サノミ善者ニモ非スシテ仕合ノ好キ人ハ古来ヨリ人ノ怪ミ疑フ事ナレトモ、陰タル善根ノ有シ故ニト云事ニ心付タル故ナルヘシ。況ヤ内心ヨリ眞実ニ發シテ為ス所ノ善事ニ於テヤ。惡事モ亦之ニ反シテ同シ。積惡トハ惡ヲ積ミ重ナル事ニテ是モ惡ヲ為シタレバトテ忽焉ト禍ヒヲ得ルニハ非ス。年月久ク惡ヲ行ヒ、積重ヌレハ人惡ミ神怒ルニ因テ、終ニハ禍ヒヲ蒙ルモノナリ。是ヲ以テ先ツ人タル者ハ善ヲ為セハ善ノ感格アリ。惡ヲ為セハ惡ノ感格有ト云。自然ノ道理ヲ知ルヘシ。人ノ吉凶ハ先ツ心中ニ萌シテ、夫ヨリ面部手足エ顯ハル、

者ナリ。常人ハ此ヲ知ラサル故ニ、或ハ釵難盜難、或ハ
火災水難風難等ノ禍ニ遇ヒ、或ハ頓死ナドスル迄モ何ノ
弁ヘモナク偶然トシテ打過ルノミナリ。賢明ナル人ハ人
ノ言モイヒ動キヲ見テ能ク之ヲ知り、其人ノ吉凶禍福ヲ兼
テ云ヒ、当タル事ノ類和漢共ニ之多シ。其現証枚挙スヘ
カラス。老子ノ語ニ、人ハ天地之氣中ニ生シ、動作喘息
皆天地ニ応ス。善ヲ為シ惡ヲ為ス、天皆是レヲ鑑ム闇昧
ト謂フコト勿レ。神我カ形ヲ見ル小語ト謂フコト勿レ。
鬼我カ声ヲ聞ク、人陽アウハニ善ヲ為セハ人自ラ是ニ報シ、
人陰タル善ヲ為セハ鬼神之二報ス。人陽惡ヲ為セハ人自
ラ之ヲ治メ、人陰惡ヲ為セハ鬼神之ヲ治ム。故ニ天人ヲ
欺カス。之ニ示スニ影ヲ以テシ地人ヲ欺カス。之ニ示ス
ニ響キヲ以テス。是皆ナ自然之符ナリト云カ如シ。又我
皇典ニモ一條兼良公
神代紀纂疏人爲ニ惡於ニ顯明之地一則帝王誅レ之、
爲ニ惡於ニ幽冥之中一則鬼神罰レ之、爲レ善獲レ福、亦同
レ之、神事則冥府事也ト云ヘリ。実ニ是陽ハニ知ラル、
惡事ノ有ルハ顯明ニ上ヨリ罰シ玉フ。陰ニ知ラレヌ惡
事ノ有ルハ人ハ知ラスト雖トモ神明ヲ欺ク事能ハス。幽
間ヨリ神明ノ照臨シテ冥罰ヲ行ヒ賜フ。其ハ血ヲ吐キ体

ヲ碎クル如キ現罰ヲ蒙フル事ハ無クトモ、必スソレニ応
スル惡疾災難短命子孫斷滅ノ類ヒノ御罰ヲ受ル事ナリ。
又善事ヲ修シテ幸福ヲ賜フモ是ニ同ジク、神ノ現形シテ
宝財ヲ賜ガ如キ、現實ヲ蒙フル事ハ無クトモ、必ス其レ
ニ応スル無病幸福長壽子孫繁榮ナドノ御恵ヲ受ル事ナリ。
幽間顯明ノ差別有ト雖トモ相混シテ共ニ一間ノ如キ界ナ
リ。其ノ闇キ方ヨリハ明アカキ方ハ能ク見ユルトモ、明キ方
ヨリ闇キ方ハ見エザル如ク、幽冥ヨリ顯明ハ見徹シ玉フ
者ナリ。万葉集ニ海原ノ島ニモ沖ニモ神集カシマリウシハキ
イマス諸ノ大神云云、有ルガ如ク、何所トテモ神明ノ至
リ坐サヌ所ナシ。乃チ頭ヲ拳ルコト三尺ニシテ神明有リ
ト知ラハ、豈ニ畏レザルヘケンヤ。而ルニ是ヲモ弁ヘ知
ラスシテ影闇キ惡事ヲ為シテ世ニ有人ハ欺キ得ルトモ幽
間ヨリ神ノ憎ミヲ受ケテ遂ニ其ノ神罰ヲ蒙ラスト云コト
無シ。慎シマズンハ有ルヘカラス。衆庶茲ニ注意シ宜シ
ク淳素質朴ヲ旨トシ、傲慢貪淫憎妬等ノ心理ノ穢惡ヲ攘
ヒ清メ、身ノ行ヒヲ慎ミ、純情純善ノ天理ニ順孝シテ天
心人心不二ノ心理ヲ練達スヘシ。心ノ一理ニ達スレハ則
チ天理人道自カラ明カナリ。

次ニ皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守セ令ムヘシ。夫皇上奉戴トハ、皇孫天津彦々火瓊々杵尊、天降以來、万世一君ノ掌リ玉フ所ニシテ、御世御世ノ天皇四海ニ君臨シテ億兆ヲ統御シ賜ヒ、神祖ノ大御心ヲ御心トシテ朝夕祭政共ニ行ハセ玉フ御事、一日モ怠リ賜ハス。是他ナシ。惟万物ノ生成蕃殖スル事ヲ祈リ、天下ノ人民衣食住ニ満足シテ豊饒安樂ニ居ラシメントノ叡慮ナリ。物トシテ其德輝ヲ被ラサルハナシ。其天恩ノ広大ナル事ヲ識リ悟リテ、報答ノ思ヲ念々欠サラン事ヲ奉戴ノ要務トス。神祖天照大御神彼ノ穀物ノ種ヲ御覽シテ、此物等ハ宇都志伎青人草ノ食ヒテ活クヘキ物ソト云云。其庶民ヲ愛撫シ玉フ事此ノ如シ。庶民宜ク父母之想ヲナシテ誠敬ニ報答ヲ為スヘシ。因ニ曰ク、人トシテ恩ヲ受ケテ恩ヲ報スル心ナキ者ハ人ニシテ人ニ非ス。而ルニ雨露ノ仁ニ沐シ、昌平ノ化ニ浴シテ其鴻恩ヲ報ヒントモセス、心身ノ穢惡ヲ身滌キ攘ヒ除カントモセス、遊手徒食シテ恣ニ惡事ヲ積ミ、重ネテ、或ハ顯明ニ於テ人ニ誅セラレ、仮令又顯世ニ於テ現罰ハ遁ト雖トモ幽界ニ於テ鬼神得テ之ヲ罰ス。而ルニ己カ造作ノ自業ヨリ招ク所ヲ弁ヘス、還テ他ヲ憎ミ恨ム、其憎

恨穢惡ノ凝リ分リテ、或ハ鬼畜蟲魚等ノ異類ニ生ヲ転セシモノ自然ノ道理アラン哉。春日祭ノ秘伝ニ彼祭祀ニ獸肉等ヲ神饌ニ用ユル事ハ彼異類ニ於テ死期ノ近カラシ者ヲ狩リ得セシメテ、其神饌ニ遇ヘルヲ縁トシテ生ヲ人界ニ転シ、然シテ后子遂ニ神魂ノ本原ニ歸レ復セ令ントノ厚キ仁愛ノ神意ナリト云云。恭シク惟ルニ神祖ノ国土ヲ經營シテ庶民ヲ愛惠青人草ト詔ヒテ其青草ノ繁ルニ譬ヘテ人民ノ生成蕃息センコトヲ誓ハセ賜フ事ハ、蓋シ濟生ノ慈愛広ク鬼畜蟲魚ニ至ルマテ推及ボシ玉フ厚キ垂仁ノ神慮ヨリ出ル所ナラン乎。抑我朝ノ天皇天神地祇、極ヲ立、統ヲ垂レ玉ヒテ日神三種ノ神器ヲ伝テ三徳不測ノ威靈ヲ示シ、万世無窮ノ洪業ヲ開キ玉フ、其日ノ大御神ノ神裔ニシテ、更ニ絶ユルコト無ク、御世御世ノ天皇ハ皆ナ神明不測ノ聖德ヲ以テ四海ニ君臨シテ億兆ヲ統御シ玉フ。故ニ和訓シテ須目良伎トモ須目良美古登トモ称エ奉ルハ、則チ此所以ナリ。當時、神祖天照大御神、皇産靈大神ノ二柱ノ大御心トシテ天下ニ蕃息セル人民ヲ御治メ有ルヘキ為ニ大御神ノ御孫天津日高彦火瓊々杵ノ命ヲ以テ天上ニ於テ天皇命ノ御位ニ即ケ奉リ玉ヒ、天ノ下ノ大

君ト定メテ此御国エ天降り奉リ玉ヘリ。是則チ天子ノ始ナリ。御父神ハ天照大御神ノ御真子天ノ忍穂耳命皇産靈ノ大神ノ御女杖幡千比売ノ命ノ生坐セル玉依毘売命ヲ娶リテ其御間ニ此邇々芸ノ命ヲ生玉ヘリ。故ニ日ノ大御神ニハ御孫ニ坐シ、皇産靈ノ大神ニハ御曾孫ニ当リ玉ヘリ。故ニ皇御孫ノ命ト称シ奉ル。是邇々芸命ノ御孫鸕鷀草葺不合命ニ至テ^{日ノ大御神ヨリ第}綿津見神ノ女玉依毘売ノ命ヲ娶リ、御子ヲ生坐。名ヲ神倭伊波礼毘古尊ト^{オホノミケ}号奉ル。則神武天皇是ナリ。此御宇東征シテ大和国橿原ニ於テ始テ神明ヲ祭り、我国ヲ以テ秋津島ト名ケ玉フ。自レ爾以降、天孫王化大八洲ニ流ハリ、蒼生徳沢ヲ潤シ、正直之神、凡（ソ）国トシテ靡カサルハ無シ。而シテ皇国ハ開闢之當時ヨリ神裔改タマラス。帝系一基ニシテ他ヲ交ハス、宝祚^{トコシヤ}ヘニシテ万々歳ニ既、且ツ神祖^{ニ柱}天照^{高皇}之名ヲ以テ之ニ象トリ、天皇ト称号シ奉ル。此ノ称ハ本邦ニ限レリ。故ニ外国ヨリ君子国ト称美ス。又竺乾之金仙モ亦説經中ニ往々東北之國ヲ慕フ之義見タリ。当初漢土及ヒ西洋万国ノ偶ヒト豈ニ同日ノ論ナランヤ。乃チ皇国ハ日ノ本国、万国ハ日ノ未国ト云モ誣ユヘカラス。当初

神武天皇即位以來御一世御レ世天皇則チ秋津神ナリ。万民ハ皆是神明之奴僕也。誰カ神徳ヲ仰カザランヤ。誰カ皇上ヲ奉戴セザランヤ。君々タラスト雖トモ臣以テ臣タラズンハアルベカラズ。宜ク君臣ノ大義ヲ明カニスベシ。且朝旨ヲ欽テ遵守シ奉ルベシ。夫レ朝旨トハ皇上ノ旨命ナリ。万民固有ノ天性自然ノ神理ハ万祀不易ノ大道タリト雖トモ、未タ其大道ノ蹟ハレサルトキハ人事ニ於テ常住不變ナルコト能ハス。因テ人事ノ上ニ就テハ其ノ時々ニ随テ法令ノ御制モ亦無キコト能ハス。夫我朝ハ遙ニ神之化風ヲ稟来リ、皇統万世ニ垂ル。是以テ人天然トシテ謹敬謙讓アリ。故ニ別ニ法令無シト雖トモ、自ラ質朴温順ニシテ奸偽諂詐ノ病有ルコト無シ。然リト雖トモ春往秋来テ漸々人ノ情慾深ク濁リテ神化ヲモ衰耗ス。総シテ是四海之安危ハ只神慮ノ是非ニ在リ。一天之治乱ハ専ラ神明之賞罰ニ任ス。而シテ神之人君ヲ愛スルハ、其レ至ラサルガ神ハ言無ナリ。人君事ヲ行フニ違フコト有レハ則災異ヲ出シテ以テ之ヲ謹告ス。父之子ニ於ルガ如シ。然シテ子ニ過チ有レハ則之ヲ詔シ、甚キ則ハ之ヲ撲ツ。此レ他無シ。愛之至リ也。一切善神之万民ヲ愛ス

ルモ亦子ノ如シ。所以ニ国政濁リテ私典ノ臣窮民ヲ困ル
令メ、將ニ国家ノ乱ニ至ントスルトキ、神禍ヒヲ降スニ
早ヲ致シ、或ハ天変地災等種々ノ怪異ヲ示ス。天保年間
白虹現スルヲ始メ帚星地震波濤等ノ天変地災數々恠異有
リシモ思ヒ合スヘシ。是慚愧ノ心ヲ生シ不正ヲ改メ仁政
ヲ以テ民ヲ惠マ令ントノ諫誡ナリ。而ルニ尚之ヲ悟ラス。
益々不正ヲ行ヒ遂ニ衰亡ニ至ル。諸天善神深ク之ヲ傷ミ、
此ノ病根ヲ治ント欲シ、數々示現善策之良藥（劇雷怒電一ヲ
殺多生等也）ヲ
施スト雖トモ、三毒弥々深ク身ニ入テ神明之聰察ト雖ト
モ是時ニ至テハ其功ヲ失スト云。是以テ善神皆国ヲ捨テ
擁護ヲ加ヘス。故ニ一切ノ邪神其ノ間ヲ得テ恣ニ国ニ
ハヒビコリ
蔓リ、能ク人ヲ詐リ、世ヲ欺ムキ、大明神ノ託宣ナリ
ト偽稱シテ、人ヲシテ邪路ニ陥イラシム。世ニ神降シナト稱シ
種々ノ業ヲ為ス者
是也
蟲魅又其氣ニ乘シテ人ニ入テ身心ヲ惑乱令メ、相互ニ
疑惑ヲ生シ、国家ヲ諍ヒ、終ニ天下ノ大乱ニ至ル。既ニ
宗廟深ク之ヲ鑑ミ、託宣ヲ止テ奸詐ヲ誡シメ、若シ靈驗
有サハ夢ヲ以テ之ヲ示サント也。神風記是神明之力ヲ能
ハサルニハ非ス。古ニ曰ク、天ノ作ル孽ハサハヒハ猶違ヘシ。
自ラ作ル孽ヒハ道ルヘカラスト。天命ノ定マリテ受クヘ

キ禍ヒハ務方ニ依リテ道ルヘシ。自身ヨリ作リタル禍ヒ
ハ道ル、事能ハス。神力モ業力ニハ勝タスト云是ナリ。
又賢者善人国ヲ去リ、小人世ニ蔓レハ則能ク阿諛シテ君
主ノ眉睫ヲ摘ミ、寵遇シテ忠臣ヲ退ケ、讒慝羅絡シテ非
罪ヲ殺シ、オヲ譽メ、能ヲ挙メ、偽詐ヲ進ム。是ヨリ政
理ヲ濫リ、利欲ヲ逞フシテ明主ヲ彈去リ、明主ト雖ト
モ這ノ長喙ニ惑ヒ、下情壅カカリ、上ニ達セス。遂ニ躁狼
擾乱シテ其衰亡ニ至ル。古今皆爾リ。後世法令立テスラ
尚此ノ如キノ徒多シ。古ニ曰ク、君子ハ嘉木ノ如シ。之
ヲ封植コトハ甚タ難シテ之ヲ去ルコトハ甚タ易シ。小人
ハ惡草ノ如シ。種マカスシテ生ス。之ヲ去レトモ復マヌマヌ
蕃。乃至善人之ガ為ニ地ヲ掃ヒ、世主之ガ為ニ屏息ス。
實ニ是小人ハ得易ク、賢者ハ得難シ。是ヲ以テ其時々ニ
随テ法度憲章ノ法藥ヲ施シ、以テ其病根ヲ治セズンハ有
ルヘカラズ。蓋シ時勢ノ變革ハ猶四時ノ循環スルカ如シ。
世外ノ教法猶所化ノ事行ニ於テ五百念之沿革有ルコト
金仙ノ懸記ノ如シ。況ヤ世間ノ人事ニ於（テ）ヲヤ。是
レ天地ノ理時ニ循テ宜ヲ制スルハ人道ノ常ナリ。是以テ
天下ノ制度其時々ニ随テ變更セサルヲ得ス。近クハ慶長

年中以來或百五十有余年、昇平之化ニ浴シ、行住座臥共ニ安穩ナルニ随テ稍々私曲ヲ恣ニシ、惟々耽り、吾身有ヲ知テ世ヲ憂フルヲ知ラザルニ至リ、遂ニ天恩ノ広大ナル仁恵ヲモ覚ラス、衣食住ニ驕奢ヲ極ム。因テ其弊風ヲ一洗無クンハ能ハス。今也、天運一変之秋ニ膺リ百度觀ヲ改ム。特ニ万国相通スルニ至リテ其鴻業ヲ開キ玉フコト、徳光四海ニ輝キ、新タニ金科玉律ヲ定メ賜ヒテ数々之ヲ天下ニ号令シ、万庶旧染ノ私見ヲ去リ、尽スニ非ンハ安ソ之ヲ致ス事ヲ得ンヤ。然ルニ因循弊習ニ膠執スル者ハ、古今時勢ノ變通ヲ知ラス。文明開化ノ秋ヲ開悟スルコト能ハス。因テ大政一新ニ先ツ勅シテ、我神州ノ堂々タル徳輝、隆盛ノ祭祀ヲ興復シ、以テ庶民ニ至ルマテ其祭典ノ式ヲ宣布シ玉フ。且ツ在廷ノ賢士苦心焦勞、民ヲシテ文明正大ノ化ニ迪ント欲ス。恭シク惟ルニ、是レ天下ノ人民ヲ撫育シ、赫々タル神威ノ加被ヲ蒙ラシメ、塗炭ノ苦痛ヲ救ハント至大至広ノ仁恤ヲ施シ、祭祀ヲ以テ政化ヲ翼賛シ玉フ盛意概見ス可シ。扱今斯ノ如ク西洋ノ諸国我皇國ニ參リ來テ通親ヲ乞ヒ、求ル事ハ固ヨリ神祖ノ大御心ヨリ出ル所ナラン。其ハ神世ノ昔須佐之男ノ

命外ツ國々ヲ廻リテ歸リ渡ラセ賜ヒテ詔リ玉フ、其ノ御言ニ韓郷ノ嶋者有ニ金銀一、於ニ吾兒所御之國一不レ有ニ浮宝一則未レ佳也トテ、舟ニ造ルヘキ木ヲ生シ置キ給ヘル事神典ニ見ヘタリ。又仲哀天皇ノ御宇、天照大御神ノ御誨シ玉ヘル其御言ニ、西方有レ國、金銀為レ本月之炎耀、種々珍宝多ニ有レ其國一、吾今歸ニ賜其國一云々。此ハ神功皇后ニ三韓ヲ征シメ玉ヘル時ニ御誨シノ御言ナレトモ、斯ク神功皇后ノ三韓ヲ征テ玉シニ因テ其御稜威ノ宇宙ニ輝キテ万国コト々ニ怖畏ミテ、次々ニ服從ヒ仕ヘ奉リ、其產物ヲモ棹舵干サズ、貢キ獻ル事ノ始メト成リテ、今モ亦其ノ如ク大海原ニ舟滿都々氣テ、遠國ハ八十綱打掛テ引寄スル事ノ如ク、皇大御神ノ大御心トシテ斯ク引キ寄シ賜フ事トハ察レタリ。於戲時ナル哉。外ツ國々皇國ヲ慕ヒ來リテ頻リニ和親ヲ乞フ事然リ。而シテ其交際ヲ需ルニ随フテ是ヲ許容シ玉ヒ、遂ニ万国通商スルニ至ル。是ニ於テ万国交際ノ神意ニ違ハサルヲ知ル。固ヨリ我朝ノ皇上ハ即テ現人神ニテ坐マセハ、朝旨ハ則チ神意ニシテ御法令ニモ其時々ノ趣キ種々有リテ、其時々ニ随テ公ヨリ仰セ出サルル御令ハ即テ時々ノ神ノ御

心ヨリ出テ来ル事ナレハ、其レニ逆ヒ違フコトハ則チ天
理ニ逆フ道理ニシテ、神ノ怒リヲ受ケテ遂ニ冥罰ヲ蒙ム
ルヘシ。豈ニ畏レサルヘケンヤ。然ラハ則チ上ヨリ出ル
法令ト有ラハ違背ナク堅ク相守リ、六親睦シク家ヲ治メ、
自他ノ私見ヲ去リ、日新之理ヲ窮メ、厚ク信義ヲ尽シ、
万国互ニ有無相通シ、彼此相益スルヲ以テ今日人事因ル
ヘキノ道ト爲ス。宜ク御主意ヲ遵奉シ、各我カ本分ニ尽
力シテ、而シテ万物蕃息スル所ニ注意シ、其ノ好ム所、
長スル所ニ就テ後來活計ノ方向ヲ授ケ、以テ務ト爲シ、
能ク産ヲ治メ、万国ニ卓立ノ基ヒヲ建ツヘシ。是ヲ朝旨
遵守スルノ急務トス。

扱心身ニ行ニ就テ心ノ行ヒハ本ナリ。身ノ行ヒハ末ナリ。
心行ニ達スルトキハ身行自ラ達スヘシ。宜ク心行ノ根本
ヲ練達スヘシ。根本立スシテ末葉繁茂スル事ヲ得ス。豈
ニ其本乱レテ末治マラン哉。故ニ曰ク、心ノ行ヒヲ以テ
万行ノ第一トス。所謂心行トハ凡ソ一念不動トテ、一切
望ミノ念慮ヲ起サス。無念無想ニシテ心理ニ一物モ蓄ヘ
ス。皆天道ニ担任セテ微塵モ心ニ掛ケス、思慮分別ヲモ

用ヒス、浩然ノ氣ニ混シテ心ヲ虚空ノ如ク持ツナリ。譬
ヘハ竹ニ節ホドノ度ナル内ノ虚ウツナル色ノ常磐ナル性ノ強ナ
ル其ノ徳有カ如ク、心ヲ虚ニシ、心根ヲ強クシ、事ニ程
能クシ、行ヒヲ常ニス。是ヲ心行ノ大要トス。其心ヲ空
ニストハ胎内ヨリ定マリタル種々ノ天命ヲ抛棄ナクステテ取り付
カセズ、心根堅固ニ、能ク之ヲ防キテ心地ニ善行ノ功德
ヲ殖ヘ、悪行ノ種子ヲ生セザラ令メン事ヲ要ム。譬ヘハ
一切ノ草木ハ種子有ルガ故ニ生スルナリ。若シ此種子ヲ
大地ヘ植ヘスシテ虚空ニ置カハ、陰陽妙ナリト雖トモ種
子ヲ生セシムル事無キカ如ク、土台ノ心地ヲ虚ニシ、無
念無想ニ推シナラシ置テ、而シテ后ニ徳ヲ修スヘシ。其
レ修徳トハ家ナドノ破損ヲ修理スルカ如ク、身ノ惡ノ破
損ヲ去リ棄テ、善事ノ良材陰徳ノ大木ヲ積重ネ、以テ
修理スル意ナリ。此ノ如ク徳ヲ修行スト雖トモ己レヲ高
ブラス。又天ヨリ寿福ヲ与エ賜フカ、又ハ富貴ヲ与ヘ賜
フカ、其外一切ノ望ミ事ヲ授ケ賜カ抔ト神意ヲ伺ヒ望ム
意念ヲ起サス。惟天道次第ノ意ヲ持テ居ルトキハ自然ト
多福ハ待スシテ鐘リ来リ、一切ノ諸願満足スルナリ。是
レ皆心ヨリ起リテ徳ヲ修スル其心根天道ニ感通スルカ故

ナリ。其ノ天道トハ人ノ設ケ作セル道ニモ非ラス。可畏
モ天祖高御産巢日ノ神ノ御靈ニ依リテ神祖カムロキ伊邪那岐伊邪
那美ノ二柱ノ大神ノ始メ玉ヒテ天照大御神ノ受ケ持テ伝
ヘ玉ヘル道ナレハ、其神御所為ニ随ヒテ神習ヒニ習ヒテ、
自カラ思慮分別ヲ用ヒス。拵ヘ為スデモ無ク中心ヨリ起
リテ神境ヲ謀ラス。愚ナルカ如ク心ヲ誠心ニ止リテ大御
神ノ大御心ノマ、ニ打任セ奉リテ、一途ニ誠ノ至極スル
所ヲ行フ事ナリ。是ヲ天道トモ神道トモ云。皇典ニ惟神
者謂下随ニ神道一、亦自有中神道上也トアル是ナリ。所謂
神道トハ至誠心ヲ以テ教ノ第一ト為ス。古語ニ神ナルコ
トハ至誠ヨリ神ナルハ無シト云ヘリ。古ヨリ誠ヲ以テ
種々ノ不思議ヲ顯ハスコト歴代其例証少ナカラス。鬼神
ノ不測ト云類モ、実ハ吾誠ノ至レル処ヨリ感発シタル者
ニシテ、外ニ神妙不測ハ無キ事ナリ。而シテ我神道ノ真
説ハ彼怪力乱神ヲ語ラスト教ユルニ異ナリ、我国ノ神ハ
是天ヨリ此国ニ降リ玉フ神ナリ。国ニ成リマス神有テ天
地開闢以來、此国ニ鎮座坐マシテ神ハ此国ノ徳ノ体ナリ。
妙怪ナル事ハ神ノ功用ナリ。人ハ斯ク生レ出シ身体識神
固ヨリ神ノ産靈ノ賦与シ賜フ物ニシテ、則チ天神ヨリ出

テ、一民モ神胤ニ非ザルハナシ。故ニ自ラノ神道アリ。
所謂是日ノ本ノ秀号有テ教ノ異国ニ異ナル所以ナリ。抑
我国ハ彼所謂天地陰陽不測ノ靈ヲ指シテ空シキ理ヲ而已
説クニ同ジカラス。夫レ皇国ノ真説ハ神ニ理ノ躬氣ノ躬
ノ躬有リテ鎮座坐マス事ヲ弁明シテ、其天地神祇ノ有物
ヲ立テ人ノ常ヲ治ム。乃チ天ニ天照ノ神明有リテ神變有
ル事ヲ知ル。地ニ地照ノ神明有テ妙化有ル事ヲ知ル。人
ニ魂魄有テ奇異有ル事ヲ知ル。物ニ精靈有テ靈怪有ル事
ヲ知ル。皆是天地ノ有物ナリ。鬼神ヲ觀、黄泉ヲ知ガ故
ニ之ニ伏シテ善惡ノ応、幽顯共ニ神明ノ照臨有マスヲ畏
レテ放逸ナラズ。而ルニ偏無ニ著スル者ハ神有ノ物ヲカ
スメテ無トナシテ魂ハ氣血ノ精ナリト思惟シ、人死スレ
ハ則チ魂ハ氣血ト共ニ散滅シテ灯ノ消ユルカ如シト執ス。
故ニ幽顯ヲ畏レス。放逸ニシテ妾リニ惡事ヲ為シ尽ス。
又偏有二著スル者ハ是身体ヲ常住不變ノ物ト執スルガ故
ニ死期ヲ畏レス。彼我ノ念ヲ起シ貪欲強盛ニシテ是耽リ、
吾身有ヲ知テ他ノ憂フルヲ知ラス。此ノ如ク無物ヲ有ト
シ有物ヲ無トスレハ、則チ法スタレ、所行放逸ナリ。是
以テ中道ノ妙義ハ固ヨリ天祖ノ大御心ナリト感戴シテ、

宜ク偏有偏無ノ二執ヲ攘除キテ心裡ニ恥ト畏ト勇トノ三心ヲ發スコトヲ要シテ、以テ人ニ対シテハ己カ非ナル事ヲ恥チ、神ニ対〔シ〕テハ陰レタル不善モ幽界ヨリ照臨有ル事ヲ畏レ、悪事ハ勇氣ヲ起シテ防キ退ケ、善事ハ勇猛ヲ勵マシ、務メテ徳ヲ積ミ、務メテ心ヲ広ク持チ、怒リノ氣ヲ押シ降シ、天地仁愛ノ心ヲ起シ、務テ精神ヲ養フヘシ。凡ソ人ノ精神ハ則チ天神ヨリ賦与シ賜フ処ニシテ一身ノ主宰タリ。天地ノ造化ニ養ハレテ呼吸動作ヲ為シテ知覚思慮ノ發出ヨリ四肢百骸ノ運用スルモ皆此靈有レハナリ。能ク是本心本性ヲ体認シテ放散セサレハ、則チ心行自然、身行ニ契合シテ言行心意悉ク呼吸ト共ニ天地ノ神明ニ応シ、神人合一ニシテ魂ヲ神ノ本原ニ歸着安定スル道理ノ有ル処ヲ明ラムヘシ。然ラハ神明分賦ノ精神モ自ラ明カナルベシ。是則チ心行教理ノ要ナリ。但シ是ハ上根之人ノ行ヒ得ル所ノ真伝ナリ。下根ノ者ハ是真伝ニ堪ヘスシテ人力ニ及ビ難ク、人事尽シ難キ者アリ。斯ル人ハ、近クハ能キ師ニ随ヒ、能キ友ニ交リ、遠クハ神明ニ誓願シテ一心舟精ヲ猛勵シテ朝夕神拝ヲ怠ラス、冥助ヲ祈リテ常ハ職業ヲ為スヘシ。中ニモ心ニ神明ヲ念

シ、追悔存想スヘシ。然ルトキハ其誠信神明ニ感通シテ自然ト心行ノ所ニ至ラン。次ニ身行トハ君ハ仁ニシテ臣ハ忠ナリ。父ハ慈ニシテ子ハ孝ナリ。夫ハ剛正ニシテ婦ハ貞順ナリ。兄弟長幼ノ序アリ。朋友ニアザムカザル信アリ。是五倫ヲ守リ、常ニ彝倫ヲ乱サズ。平生日用ノ近キヲ以テ人々天然ノ性ニ隨而、兼テ授産ノ方向ヲ定メ、鰥寡孤獨ヲ見テハ、其好ム所、長スル所ニ応シテ後來活計ノ産業ヲ授ケ、或ハ国郡村里ニ於テ衆人ノ為ニ成ル事ヲ存想スヘシ。或ハ水吐キ悪シキ処ニハ渠ヲ掘リ、或ハ堤ヲ築キテ洪水ノ備ヘヲ為シ、或ハ路橋ヲ修理シテ往還ノ人ニ便リシ、或ハ暑氣ノ時分ニハホドコシ漿ヲ出シ置、或ハ挾キ路ハ広クシ、險シキ路ハ平カニシ、或ハチヤ岐ノ多キ路ニハ道指南シルベノ立石ヲ建置キ、或ハ人ノ危難貧窮ヲ見テハ之ヲ救ヒ賑ハス等、事ニ触レ縁ニ随テ善ヲ為ス事多端也。斯之如ク善事ヲ為スト雖トモ善人顔ヲ為サス。私シヲ棄テ衆人ノ為ニ成ルヘキ事而已ニ尽力シテ、名聞ヲ離レ実義ニ務メ行クトキハ、請ノ災難ヲ滅シテ諸ノ幸福ノ来ル事、是レヨリ早道ナル事ハ無シ。金銀ニ富ル人ハ善ヲ成ス事易シ。易フシテ為サザルハ自ラ我ト我身ヲ害

スルナリ。

易フシテ弥々為スハ錦二花ヲ添へ、順風二帆有カ如シ。
又貧賤ナル者ハ善ヲ為ス事難シ。難シト為テ為サザルハ
益々貧賤ヲ招クナリ。難フシテ弥々為スハ一善モ百善ニ
当ルヘシ。若シ又タ下根ニシテ此ノ陰徳ヲ行フニ堪ヘザ
ル人ハ名聞利養共ニ行フヘシ。還テ名利ニ因テ名利ヲ難
ル、事有リ。古歌ニ、世を渡るはしとおもひ〔て〕ふみ
みれば誠の道に在るぞうれしき、ト云々。名利トテ為サ
ルトキハ遂ニ惡事ヲ攘ヒ尽ス事ヲ得ス。仮令名利ト雖ト
モ善ヲ為シ惡ハ為スヘカラス。因テ惡心ハ発ルトモ發ラ
ストモ心ニ頓著セス。但一心ニ善事々々ト志サシ間斷ナ
ク行ヘハ、邪念ハ攘フヲ待スシテ相止ミ、遂ニ身行ニ善
ヲ積重ネテ、自然ト心行ノ所ニ至ルヘシ。是則チ身行教
理ノ要トス。但シ上根ノ人ト雖トモ末世ノ今ニ於テハ自
力ニ及ビ難ク、人事尽シ難キ事有ラン。因テ人々分ニ從
ヒテ形ノ如ク祭祀ヲ行ヒ、穢惡ヲ身滌キシテ神明ノ冥助
ヲ祈リ、神ニ倚托シテ惑ヒヲ除クヘシ。但シ神明ヲ祈ル
ニ信ヲ先ニシ理ヲ後ニスベシ。理ハ賢ニ非サレハ徹セス。
聖非ザレハ尽サズ。理ニ徹セズンハ知ニ違フ事有リ。理

ヲ尽サズンハ邪ヲ悟リ還テ神道ヲナミシ、忽チ神ノ答メ
ニ遇ハン。只信ヲ堅クシ宗ヲ堅クシテ実ニ因テ理ヲ明ラ
メハ達セスト雖トモ過ナカラン。宜ク信心ヲ決スヘシ。
信ヲ決セスシテ、豈ニ其惑ヒヲ解キ其志ヲ定ムル事ヲ得
ンヤ。因テ神事ヲ修行スル者ハ先ツ信心ヲ鉄石ノ如クニ
シテ神徳ヲ仰キ、神思ヲ報シテ威験ヲ祈ルヘシ。未ダ信
心ナクシテ感應ヲ得ル者ヲ聞カス。信ハ能入之門ナリト
云是ナリ。上來ハ講義ノ大綱トス。猶詳カナル事ハ広ク
諸典ニ就キテ講究弁明スヘシ。凡ソ人トシテ信ヲ決シ、
其惑ヲ解キ、其志ヲ定ムルトキハ、天運一變シテ百度沿
革ノ秋ニ遇フト雖トモ驚ク処ナリ。泰然不動ニシテ其期
ニアタリ、速カニ其途ニ就クヘキノ方向ヲ定ム。而ルニ
此時運ニ当リテ猶之ヲ議スルハ、蓋シ沿襲ノ陋習ニ泥ミ、
知識ヲ壅塞スルノミ。如今也万国対立ノ際ニ膺リテ其旧
弊ノ私見ヲ去ラスンバ如何ソ万国ニ公法ナル所ヲ得ンヤ。
宜ク信義ヲ尽シ、游惰ヲ励マシ、万国ニ卓立ノ基本ヲ建
ツベシ。但シ今ヤ衆庶文明開化ノ聖代ニ回リ逢フト雖ト
モ其教師ナル人甚タ尠シ。譬ヘハ病者ノ良医ニ遇ハサル
カ如シ。無病ノ人ニハ書物ヲ見セテ兼々煩ラハヌ用心ヲ

為ス時ハ利益アリト雖トモ、既ニ病ヒヲ受タル人ニ忽ニカ焉ト書物ヲ見セントシテ有合フ薬ヲ与フルカ如ク、若シ其レ病ニ応セザルトキハ其益ナク、還テ害ヲ招カン。直ニ脈ヲ取り薬ヲ与ヘテ療治ヲ加フルカ如ク、平生日用ノ近キヲ以テ遠キニ達スルノ方法ヲ以テ教エスンバ、速カニ旧弊ノ域ヲ出ル事ヲ得ス。是ニ於テ在廷ノ君子心ヲ苦シメ、億兆ヲシテ文明正大ノ化ニ迪ント欲シ、広ク日誌記聞等ヲ施行シ、以テ僻地ニ至マテ師ヲ待タズシテ、独リ知識ヲ開カ令ントノ慈計誰カ仰カサランヤ。然リト雖トモ蚩々タル民目ニ文字ヲ知ラス。耳ニ道理ヲキカズ。毎々御布令ノ熟字意味ハ勿論、全文ヲ読得ル者モ甚々稀ニシテ、一ノ新事ニ逢ヘハ輒チ之ヲ驚愕ス。豈ニ徒頑民ノ羞ノミナランヤ。抑亦国家ヲ為コトムル者ノ憂ヒナリ。因テ兒童ヲシテ初学ニ先ツ日誌記聞等ノ要領ヲ読マシメハ、則チ其ノ親ノ頑愚モ自然ト聞馴シテ、遂ニハ開化ノ域ニ共ニ至ラ令ンカ。宜ク公平ノ心ニ止マリ、懇ニ説諭スヘシ。其ヲ方今ノ急務トス。予也愚昧其器ニ非スト雖トモ、我ガ教子等ノ為ニ世間流布ノ諸書ニ随テ、聊要ヲ取り集メ、以テ之ヲ書綴リ、且彼此ノ瓦礫口実等之幽玄ヲ拾ヒ

聚メ、以テ之ヲ潤色シテ、且ラク三則講義私抄ト題シ、以テ其忽忘ニ備フ而已。

予素ヨリ短睛オカメニシテ往年偶々同眼ノ人数個ニ遇ヘリ。之ヲ試ミ見ルニ其ノ通見各々不同遠近アリ。中ニ就テ予カ短睛殊ニ甚シ。且髻齡チカトシヨリ恒ニ鑿鏡アノミヤイヲ用ヒテ終ニ鏡癖メカネト為リ、昼夜行住座共ニ之ヲ離メカネ（ル）事ヲ得ス。且年レ中ニ至テ麻疹ヲ疾ミ、其余毒ノ為ニ右眼物色ヲ見ス。更ニ盲ノ如シ。左眼モ亦雲翳カスミ焉多ク、常人ノ一分ニモ猶至ラス。讀書殊ニ勞ス。自然ラ学業ニ懈怠ス。故ニ漢文ニ疎ク、且文字ニ暗シ。且夕癡暗ニシテ多ク了解セス。今諸書ニ得タル所ヲ以テ文体和漢混俗テ一ニノ端緒ヲ書綴ル耳。因テ抄中ニ往々語句ノ転倒文字誤レ謬スル所等有ラン。庶幾クハ後進同志之学士文格ヲ改メテ駁正有ンコトヲ焉。

神武天皇紀元式千五百三十三年癸酉二月日曜日

斑鳩神民 千早橋定朝謹誌

『説教大意』 大久保好伴 (明治六年七月)

説教大意序

夫大日本国の殊に秀て異域に優れる所以は人民勇敢にして寒暑其中を得土地膏腴にして五穀豊饒草木金石に至るまで缺乏なるものなき事は是皆天神祇の御恩恵にしあれば神を崇ひ勉めて其御恩恵に報ひ奉らむこそ倭心と言へきなり、されは我国の人たる者は各々分を守りて神明の冥慮に叶ふべき様真心より忠義を尽して神州固有の道に復り天稟の良質を以て愛国のこゝろさしを勵まし鴻恩に報ひけるへしとて此説教大意をなん語られしはいとも愛たく喜はしき事にし有は編者の心を取て草野の微衷を謹て刻敬識す

明治六年五月

権大謙義従五位西尾忠篤花押

説教大意

中講義大久保好伴謹述

掛巻も畏き御事にはあれど、此度朝廷におおて惟神なる神の御教を天下に普く宣布施させられしは、天下の人々に神國の神國たる大本を能心得て、人の人たる道をは知

る様にとの天皇の厚き尊き思食の旨になんありける。扱御維新後朝廷の御政事の趣は政教一致と申して天皇の御先祖様以来の旧き御掟を以て御取計ひ遊はし、種々有難き御事とも在せらるるは天下の人の偏く仰き奉る所なり。就中世に久しく衰へし神道を御再興にて天下泰平方民安全を御祈禱遊はされ、付ては是まで下方に教といふもの色々にして民の心一筋ならず、己が信ずるをのみよしとして、互にあらそひ、中には神様の有難をも知ぬものさへあることを深く御歎かはしく思食れ、かく内外の御事のしげき折柄、昔天照大御神様の立置れし眞の道を以て百姓末々の者女童までよく導き教へ諭せよと仰出されしは誠にく、無上有難き御仁心ならずや。抑天皇は正しく天照大御神様の御血統の御子孫様にましくて此天地初発の時より御代々に御持伝へ遊され、御威光と申し御慈悲と申し、世界に類ひなき生神様に坐せば、御国に住むものは何れも厚く相心得て御教典の次第を恭しく尊信し、謹て循ひ奉るべき事になん。偕その御教典はいかにと云に、掛巻も畏き第一条には敬神愛国ノ旨ヲ体スヘキ事、第二条には天理人道ヲ明ニスヘキ事、第三条には皇上ヲ

奉戴シ朝旨ヲ遵守セシム可キ事、是なり。蓋し此三ヶ条は御先祖様以来祭政一致と申て神様の御祭と御政事と一物に遊されて天下万民を御撫恤ありし神道の大旨なるが一寸一口に云ばさのみむつかしくも聞えず、勿論誰も通例承知したる筋と思ふものも有べけれど、其は只うはべのみ承知したるまでにて、真の底の意味を深く知り明にさとれるにはあらし。依て今般御教典の趣をあら／＼申聞すへし。

まづ第一条に敬神とは、天神地祇を崇敬するの義なり。就ては天照大御神様を宗と拜み奉り、信を籠て御依頼申へきよしなり。尤外々の神様も世を守り給ふ事なれば崇奉敬事し神前に出る事あらば誠真を以て拜み奉ること申までもなし。又よく／＼心得へき事は己々か産土神様は殊に善く祭るべき事なり。それもつづまる所はやはり天照大御神様を敬ひ奉るに当れり。天照大御神様を天地諸神様の上に立せられ、皇国の御根本の神様にましく／＼て、尚また尊き御神勅の次第も被為在御代々の天皇取分て厚く御崇敬遊ばさるれば、下万民もまた皆天皇の御心を心として、専ら天照大御神様を依頼奉ること素より当然の

道理なり。其のみならず天照大御神様は天上にましく／＼ながら長く御代々の天皇を御守り、天下の万民を御恵み遊はさる、也。されば今の人、善をすれば朝廷の御褒美また神様の御恩賞にも与かり、悪をすれば朝廷の御咎また神様の御嚴罰をも蒙ることながら、人によりては姦智陰悪諸の不埒を働きつ、表には之を包み御役人の目を暗ま〔し〕、一時朝廷の御咎をば免る、様なれども、神様の御照鑑は得欺きかたく、永久の御神罰は決して遁るべからず。また善人も是と同様に、一時善行の報なきが如くなれども、必後に無量の福を得るよしなり。大抵神様の御賞罰は歳月を以て云がたけれど、終には其死後に御施しなさる、なり。これには深き道理のあることぞ。抑死後の事は誰も心にかゝり恐る、所にて、世に色々の説ともあれと、実は天照大御神様の御心として大國主神様の御掌り遊ばす趣なり。ゆえいかんとすれば、人の形体は父母に受るといへども其魂は神様の御靈より授け下さる、ものにて、其性至誠至善、且神妙不思議の才能を具せり。凡物極れば本に帰る道理にして、人の死後魂は神様の御許に帰る也。此事は古き書物にも数多記され、

世の学者も申伝ふる所にして少しも疑ふべきにあらず。乍去其魂の本性を失ひ不誠不善にして神様の御心に叶はざれば、決して神様の御許に帰ることは得られず。尚また品により夫々の御咎ありて永代苦痛に沈むとぞ。是また書物に隨なる証拠も見へたり。此等のこと委しくは別に説べし。倭古の人は神道に帰依し正直なりしが、後世神道の衰へてより風俗わるかしくくなりゆき、不善不誠の輩世におほく、殊に他の説に惑ひ一向神様を畏れ敬はざるものは死後神罰を被るべし。実に浅ましき事ならずや。是処を天皇におゐても深く御憫み遊ばして、かく御教諭なし下さる事なれば、天下の万民等閑に心得べからず。返すくも人と生れては神様より授かりし本性の誠を以て朝夕神拝怠たるべからず。一身を打任せて余念なく敬ひ奉り、死後の安心を祈るべき事ぞかし。次に愛國とは自國を重愛するの義なり。実に万邦に比類なき最上の御國に生育して有ば、吾神國を重愛すべきの根本を明にして神國の神國たる所以を察し、國家を富昌にし、兵力を強大にし、以て皇威を万邦に光被せしむるを要とするべし。天下の万民厚く此処をよく心得て各分を守り、

其職を尽し、國家に報ひ奉らざんば有べからず。勤むべし、勵むべし。

第二条に天理とは、造化の神理にして、謂ゆる事物の則なり。則とは天理に差はざるを則と云事にして、即人に耳目鼻口手足の種の種々無量の神理を備て妙用を為の如きは是なり。凡ての事物に之を具備せざることなし。此条理を能く知るこそ天理を知るとは云なり。次に人道とは人の行ふべき道にして君臣有レ義、父子有レ親、夫婦有レ別、兄弟有レ叙、朋友有レ信、此五者を人倫の道とは云、また五倫ともいへり。甚大切なる御掟にて、女童までも厚く心得居らずは濟ぬ事なり。君臣有義とは君と臣との交は義理を立よといふ事なり。君とは日本國中に唯御一人の天皇を申し奉る。臣とは親王様大臣様より諸の御歴々方、官員などを申せし、また其次に華士族農工商日用稼の者共、其外率土の濱も王臣に非ざるはなしとて、卑き者に至るまでの全体を云は悉皆臣の列なり。尤それには尊卑の次第、大小の差別あり。又府県とて夫々管轄長あり。略君臣の姿に似たり。又主従と云ものもあれど、唯此世を治むべき為に天皇より仮に御定なされし

までにて、其約まる所は全国奉て天皇御一人に仕へ奉る
訳なり。故に古来天皇をば四海の父母と申し上たり。さ
れば御国内にて臣と云ふ人の限りは各其職分を修め功業
を励み、同じく天皇へ忠義を尽さずんばあるべからず。
是を君臣有義といふなり。

抑吾御国は天照大御神様の御蔭にて、其道極めて明に正
しくして誠に世界第一のめでたき御国体なり。故に偶謀
叛人などありしも、皆其志を成得る事能はず。鎌倉時代
より武家にて年久しく天下の権を掌握せしかど、今や天
運循環して、遂にまたもとの朝廷の御政事に立復れり。
今よりは益公明盛大なる御代となりて、尚行末方天地の
あらん限は此通たるべし。是しかしながら神代のむかし
天照大御神様の御定遊ばされし所なり。有難く尊き御事
ならずや。父子有親とは親子の間はしたしく愛して離れ
ざるを以て主とし、親は慈悲にして子を教諭し、子は孝
行にして親の心を安するなり。総て親には慈悲ならぬは
なけれど、子に孝行なるは少しきものなり。親の恩義は
云ふにも及はぬ事なれば、深く肝に銘して孝行を勉むべ
きなり。偕其孝行は唯よく父母に仕るのみならず、先祖

の業を継ぎ子孫繁昌するを以て孝の大なるものとす。申
も中々恐れ多き事なれど、御代々の天皇よく天照大御
神様の仰置れし御掟を守らせ賜ひて御大業を継せられ、
四海万民を御撫育遊はさる、は此上もなき御孝行にまし
く、また大臣様以下御役人衆皆其職々を守りて朝廷を
補佐なさる、は、亦大なる御孝行なり。下々にてもやは
り同じ訳にて、先祖よりの家業を修め、忠義に怠らざる、
亦身分相應の孝行なりと知へし。夫婦有別とは夫は夫の
事をつとめ、婦は婦の事をつとめ、総て内外の差別をす
べきをいふ。併し賤しき人は夫婦相助けて内外の事をも
弁ふる、はた当然の理ながら、余りなれくしくはせず、
男女の行儀は正しく有へき事なり。殊更他の男女の間に
ては決してみたりかまじき所行なとすへからず。邪淫
は神様の深く御嫌ひなさる、よしにて、必身に思当る神
罰ありとかや。兄弟有叙とは兄は弟を導き先たち、弟は
兄に順ひ譲り、其次第正しくして仮にも兄弟喧嘩などす
まじき也。兄弟ならずとも、凡年の長たりと劣れるとは
大抵同様の心得たるへし。師弟の交また此中にこもれり。
此師弟と云者も容易ならぬ義理ありて君臣父子にも並ふ

程の大切なるものなれば、弟子たらんものはよく／＼恭敬の心を尽して師に事まつるへし。朋友有信とは友達のつきあひは信義を固くすへきなり。朋友の間に不信義ありては諸の悪行も是より出来へければ最も慎べし。以上五倫の道の大端なり。猶詳なる事は別に云べし。常人は神様より御授下されし至善の性あればこそ能々此五倫の道を行ひ得れ。此禽獸と異なる所以なれば相構へて本心を失はず、神国の風儀を守りて神様を拝み、五倫の道を正しくし、不忠不孝の名をとらず、己々か家業を勤め、儉約を行ひ、年々の御年貢運上等滞なく、父母の養ひ親族の施しを手厚くし、或は村中に極貧難渋との鰥寡孤独廢疾などあらば米銭を惜まず救ひつかはすべし。是を真の人とは云ふべかりける。

第三条に皇上を奉戴するとは、皇孫たる天皇を尊崇奉事するの義なり。夫天皇は日神天照大御神様の御神胤にましく／＼て現神とも申上奉り、実に／＼世界に無上至尊の天皇にして宝祚の隆なること天壤と窮りなきことにませば、御国の民たる者は厚く奉戴して、以て御皇恩を報せずんはあるべからず。次に朝旨を遵守せしむるとは、朝

廷より仰出されし御政事に戻らず、皆遵奉堅守せしむるの義なり。抑御政事に背戾する者は謂ゆる違勅にして天地祇の御心にも悖り、生きては不忠不孝の人となり、悪名を千載にのこし、死にては其魂神様の御許に帰ること能はず。神様の冥罰免かれがたく逃かれ難たし。斯あれば、まづ第一に人を殺し家を焼き財を盗み、或ハ徒党強訴の大罪よりして人を欺き讒言し、好みて人を譏り、又は喧嘩口論、又は淫乱放蕩、又は大酒博奕等の所行は必ずすまじきことにして、其外都て世の為人の為に害ありて益なき事は皆神様の御掟に背く所と知るへし。神様の御掟と天皇の御法とは全て一物にて天下万民を御治め御恵み遊はさる、天地の大道と云ものなれば、ゆめ／＼忽に心得へからず。心あらん人は日夜神様の御照覧を畏れ、深く自ら悪事を戒め過たず犯さず、心を正しく身を潔よくして諸の行状をよく／＼勉め励みてかたじけなくも天皇の御賞感に与かり、遂に天照大御神様の御褒美を蒙り、生前死後ともに無量の福を庶幾へき事にこそ、右に述し条々は惟神なる神教の大綱にして、天下の万民たるもの、今日適従する所の道なれば、能々心得て勉勵せ

ずんば有るへからさる事也。

明治六年七月

我が大御国の御教は日月をもて正妙と為す。天地をもて書籍と為すとて煩はしからずは、なほにいさきよければ、行ひ安き一と筋の道なれとなく岩戸こもりしていまやか、やき出ければ、好伴の大人その道標をいとねもころにかいつけて説教大意と題し、やつかれらか遠き眠りのみな目さめよと起し給へるありかたさのま、

明治六年四月

木更津県少属竹内時鉄謹誌